

# 山正ニュース

2016年5月号 (通巻84号)

< 山正ネットワーク >

- ・本社 ☎ <058>271-4468 岐阜県岐阜市市橋4-5-15
- ・広域資材肥料部 ☎ <058>271-4468 (本社内)
- ・岐阜営業所 ☎ <058>271-4466
- ・可児営業所 ☎ <0574>62-5228 岐阜県可児市川合345-1
- ・富山営業所 ☎ <0766>55-3882 富山県射水市大江207-1
- ・飛騨営業所 ☎ <0577>72-4866 岐阜県高山市園府町村山857-2
- ・愛知事務所 ☎ <0568>68-7430 愛知県小牧市久保一色町南2-181
- ・山正HPアドレス http://www.yamasyou.com/

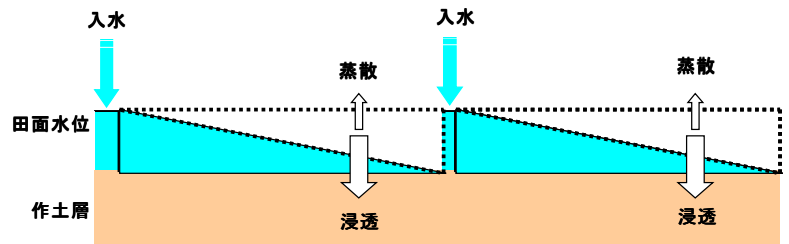
## § 1 田植え後の水管理の重要性について

～特A品質の維持には、  
イネの生理・生態に合った水管理が決め手！～

まもなく田植えが最盛期を迎えいよいよ今年の米作りが本格的なスタートを迎えることになりました。米作りではその年の気象条件に左右されることが多いのですが、今年はエルニーニョ現象の影響を受け冷夏になるのではないかと指摘もあり、これからは予期せぬ気象条件に遭遇しても豊かな出来秋を迎えることが出来るような水田の管理が重要になるものと思います。

昨年は穀検(穀物検定協会)の食味評価で飛騨・岐阜・富山ともに「特A」の評価を獲得しましたが、今年は何としてもその維持に努める必要があります。水稻はその名が示すとおり水があるところでない栽培できない作物であるというまでもありませんが、水があり過ぎても根が窒息を起こして養水分の吸収が悪くなってしまいます。そこで、今回は多様な気性条件に遭遇しても、収量・品質ともに良好な結果を得ることが出来るような健全な稲体をつくるための、いわゆる稲の生理・生態に合致した水管理の方法について紹介したいと思います。

田植え後水田に入れた水は右の図に示したように地下への浸透と田面から蒸散によって徐々に水位が低下していきます。

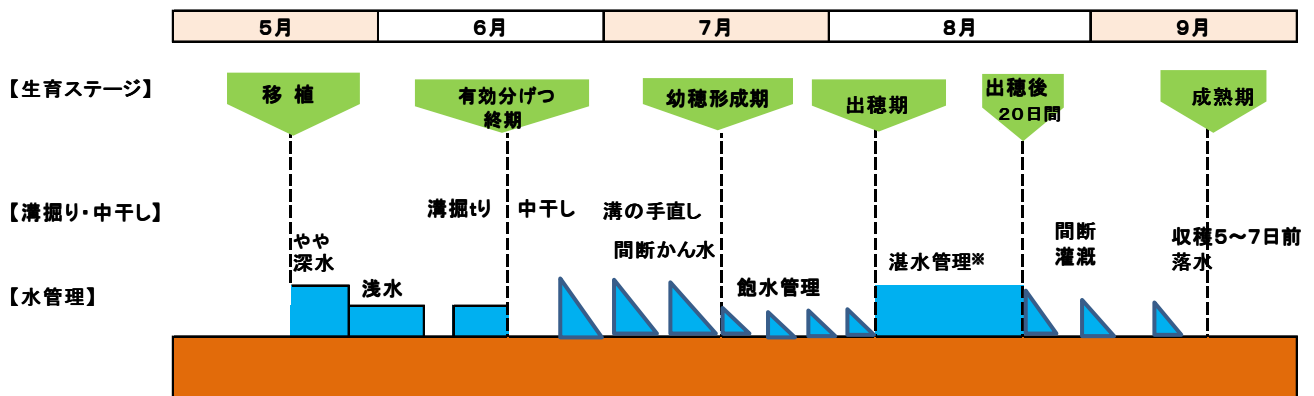


減水深のイメージ(植調JAPR Journal掲載資料を着色変更したもの)

水位低下の程度を減水深(1日当たりに水が減る量を目安として表す)といいますが、砂質で下層に礫が多い圃場ほど減水深が大きくなりますので、扇状地に広がる砂壤土などでは特にきめ細かい管理が必要になります。

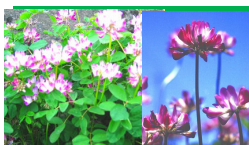
下図には生育期間全体の水管理のイメージを示しました。田植え直後はやや深水とし、中干し開始ごろまでは圃場ごとの減水深を考慮しながら浅水管理を繰り返します。1回の入水で4～5日間ほど水があつて、その後田面が露出しますが、7日目ぐらまでは田面が湿った状態になっているのが理想です。このような水管理を行うと初期除草剤や初・中期の一発処理除草剤の効果も安定します(以下次ページ)。

### 水管理のイメージ

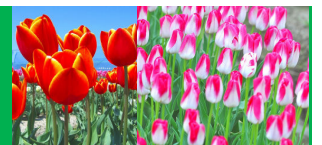


※地帯の事情を考慮して適用する

平成27年度富山県水稻・大豆・大麦栽培技術指針を参考に改変作図



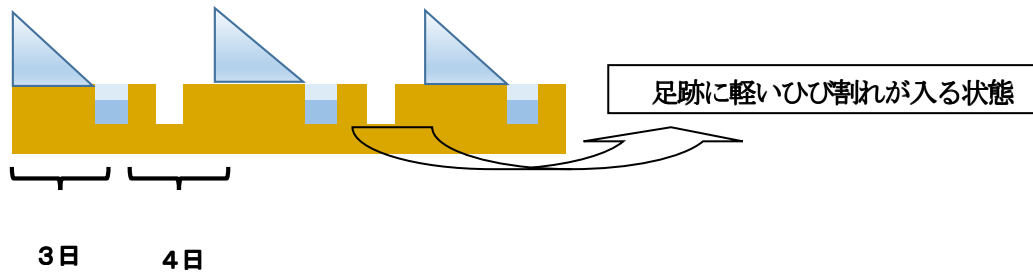
株式会社山正は、農薬・肥料・園芸ハウス・農業資材等の販売や、それに伴う農地・緑地・街路樹等のメンテナンス業務を通じ、地域農業や地域の環境緑地化への貢献を目指しています。



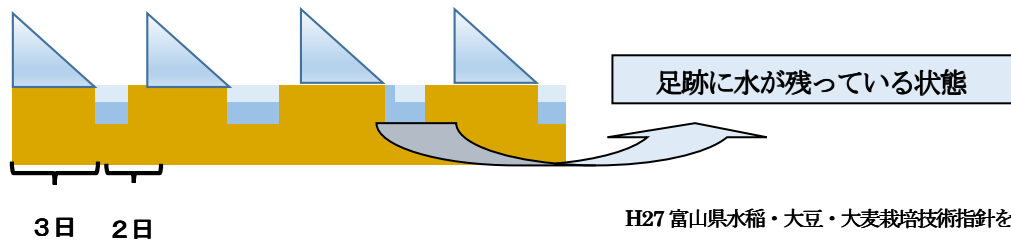
6月上旬に溝切りをして、有効分げつ終期頃から中干しを開始しますが、その後は間断かん水とします。間断かん水のイメージは下の図に示したように、圃場に入水後は徐々に水位が下がっていきませんが3日目頃までは足跡に水があり、その後足跡の水がなくなって軽いひび割れが入るようになる状態を4日ほど続けた後再びかん水する方法です。幼穂形成期までこのような状態を続けると、根に十分な酸素が行きわたり健全な稲体に誘導することができます。

幼穂形成期から出穂期にかけては稲が多量の水を必要とする時期ですので飽水管理とします。飽水管理のイメージは下の図に示したように圃場に入水後3日間ほど徐々に水位が低下しますが、足跡に水が残っている状態を2日程度続けて、再び入水する方法です。このような管理を続けると稲の穂が育っていく重要な時期に十分な水分を与えることができます。

### 間断かん水のイメージ



### 飽水管理のイメージ



H27 富山県水稲・大豆・大麦栽培技術指針を参考に改変作図

出穂期から出穂20日間は湛水管理を基本としますが、特に出穂・穂ぞろい・傾穂の各時期は葉で光合成された澱粉が籾へ転流する重要な時期ですので水を切らさないようにすることが大切になります。なお、粘質の強いところや地下への浸透が少ないところなど、圃場や地帯によっては地耐力\*が弱まるので途中で一旦水を切るなど、地域の実情に応じた水管理も必要になります。

これまでの経験では、高温や冷夏など極端な異常気象に遭遇した年次でも適切な水管理を行った圃場では安定して高品質な米になることが知られています。今年もここで紹介したようなきめ細かい水管理によって特Aの品質が維持されることに期待したいと思います。\* 地耐力;水田の土が重さに耐える力。弱まるとコンバイン収穫に支障をきたす。

## 新入社員紹介コーナー

氏名 蔵満 宝生  
所属 飛騨営業所  
入社 平成27年11月



### 《抱負・決意》

私は平成27年11月に入社いたしました。前職は精肉店で飛騨牛をはじめとする肉類を飲食店やホテル・旅館等に納品する営業職をしておりましたが、これまでの営業の経験を生かし、新たな気持ちで飛騨地域の中心産業である農業に精一杯貢献したいと思っています。

飛騨地域には日本一の生産量を誇る「飛騨ほうれん草」をはじめ「飛騨トマト」など、高冷地ならではの特徴を生かしながら、ぎふクリーン農産物として消費者から一大ブランドとして高い評価を得ているものがありますが、これらをはじめとする農作物を生産されている農家様のお役に立てるよう頑張っていきたいと思っていますのでよろしくお願いいたします。

§ 1 田植後の水管理の重要視について  
～特A品質の維持には、

イネの整理・生態にあった水管理が決め手！～（名畑技術顧問）・・・1～2ページ  
囲み記事 新入社員紹介コーナー（業務部）・・・2ページ